

市立太田高等学校アメリカ研修 7日目 (3/10)

いよいよボストンで過ごす最後の日となりました。曇り空の風が冷たい朝でしたが、以前から行きたい場所を調べ、行程を考えていた生徒たちはわくわくした表情で集合場所に集まりました。安全第一に過ごすこと、緊急時の連絡の徹底や貴重品管理には一層気を付けることなどを注意し、早速班別自由行動の開始です。改めてどのように最初の目的地に向かうのかを班ごとに確認し、出発していきました。こちらに到着したころは地下鉄に乗るのも、ものを買うにも恐る恐るといった様子でしたが、今では難なくこなせるようになりました。

本日提出してもらった日記には、まず、学校生活があまりにも短かったことを嘆く声で溢れていました。初めは授業が難しくレベルが合っていないと感じたり、友達がないことが不安で、クラス変更を考えたと言う生徒もいましたが、結果的にこのクラスで頑張った良かったと言う感想も。日本人のいないクラスに入った生徒は、それがどれ程貴重な環境であったかを実感したと書いていました。カザフスタン、トルコ、カナダ、ブラジル、中国、韓国など様々な国の留学生と出会い、交流を深め、今まで知らなかった文化や風習を直接感じる事ができたといい、それこそがボストンに来た意味なのだと感じたそうです。英語を英語で学ぶと言う日本とは違う授業を受け、自然と予習復習をしていたなど、英語の学び方にもヒントがあったようです。数日でも自分の英語力が上がったと感じている生徒も多くいました。

午後に訪れたMFA(Museum of Fine Arts)も、どの絵画が好きだったと具体的に挙げ、世界的に有名な作品に触れたことで、自分が美術好きであることに気付くなど新たな発見の場となりました。短い時間だからこそ見たいものを厳選して回ったと言う計画的なグループもあり、もっと時間があつたらゆっくり見たかったと言う声が多数でした。

そして、松川原氏の話を受け、自分軸で物事を考えることを実践する、そしてこれから自分のやりたいことを見つけると言う決意。今のままでいいのか？と自分に問いかけ、変わっていかねばならないと感じた生徒も。これから訪問する企業だけでなく、帰国してからの学校生活でも学んだことを活かしていきたいという言葉もありました。

休校もあり、スケジュール的には厳しいボストンでの日々でしたが、それぞれが一つ一つのプログラムに精一杯取り組んできました。なにより、このアメリカでの生活を楽しんでいることが表情から伝わってきます。今日も集合時間より早くに全員が集まり、特にトラブルもなく無事に班別自由行動を終える事が出来ました。事前の準備もさることながら、その都度臨機応変に対応していく行動力が身に付いたボストンでの日々でした。



出発前の一枚①



出発前の一枚②



行き先を確認



お土産を持って集合



2年生グループ



ボストンコモンで